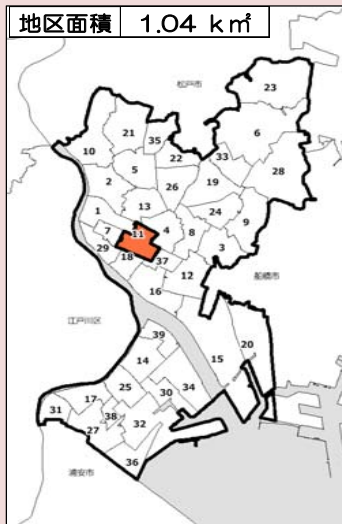


11 平田小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

◆位置

平田小学校は、市の中央よりやや西部に位置しています。

◆地形・土地利用

地形は、砂州・砂丘と氾濫平野で構成されています。
地区の南側は第一種住居地域となっており、戸建て住宅やマンションが立ち並んでいます。都市化が進むなか、古くから黒松が残る数少ない地域です。宮前緑地（平田緑地）は特別緑地保全地区に指定されています。

◆都市基盤

地区の南北にかけて外環道路が縦断し、北側には東西にかけて国道14号が横断しています。
また、地区の中央には東西にJR総武線、北側には東西に京成本線が通っており、菅野駅があります。

(3) 人口・建物概況

◆人口

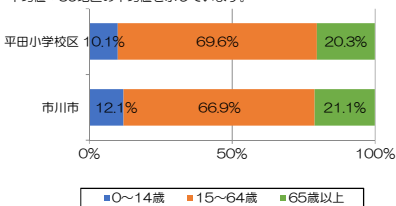
年齢別割合

	平田小学校区	市川市	割合※
人口総数	14,732人	487,621人	3.0%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 12,503人

平均値：39地区の平均値を示しています。



地区の人口は、全地区の平均人口よりやや多いです。また、市全体と比較すると15～64歳の割合がやや高く、若い世代がやや多い地区となっています。

◆建物

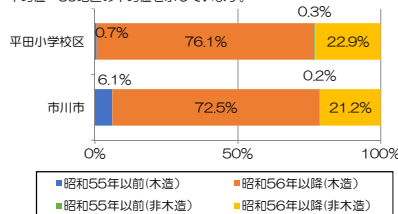
構造別割合

	平田小学校区	市川市	割合※
建物総数	3,291棟	114,958棟	2.9%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 2,948棟

平均値：39地区の平均値を示しています。



地区の建物は、全地区の平均棟数よりやや多いです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合が高いです。また、非木造建物がやや多い地区となっています。

(4) 災害リスク評価

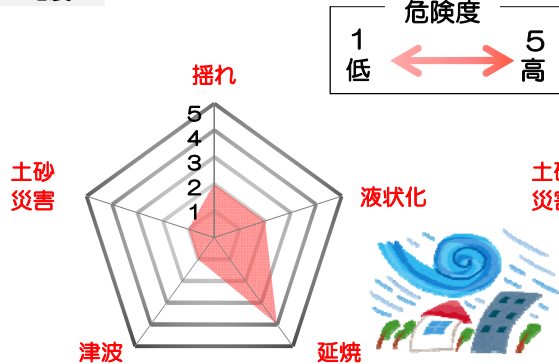
市川市防災カルテ <

平田小学校区 >

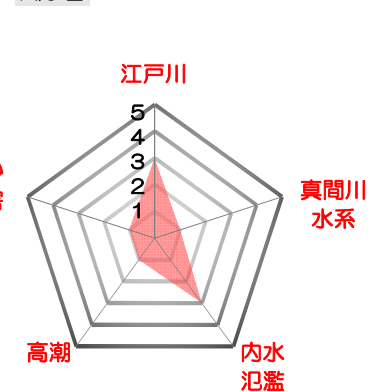
災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスク評価は後述の地震被害想定や浸水想定結果、各地区の現況データを用いて行っています。なお、危険性がない場合でも1となります。

◆災害に対する弱み（マイナス面）

地震

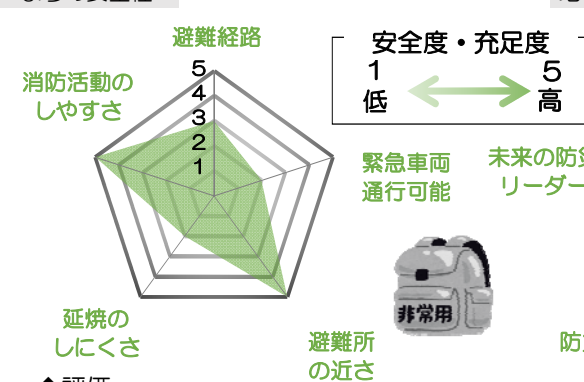


風水害

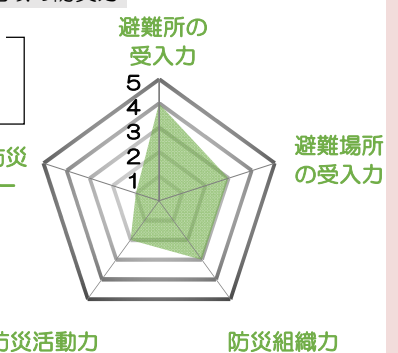


◆災害に対する強み（プラス面）

まちの安全性



地域の防災力



◆評価

平田小学校区は、地震災害については、最大震度6弱の揺れが予測され、延焼による危険性が比較的高い傾向にあります。また、風水害については、近くに江戸川が流れていることから、江戸川の氾濫による浸水の危険性や、低地であることから、内水氾濫による浸水の危険性があります。
一方で、まちの安全性については、避難所の近さや消防活動のしやすさは高い傾向にあるものの、緊急車両通行可能や延焼のしにくさは比較的低い傾向にあります。また、地域の防災力については、避難所の受入力は比較的高い傾向にあるものの、防災活動力は比較的低い傾向にあります。

(5) 防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
平田小学校	-		
勤労福祉センター分館	-		
県立市川工業高校	-		

◆避難場所

名称
平田小学校
勤労福祉センター分館
県立市川工業高校

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設（公設）	新田第2保育園		医療救護所	なし
	平田保育園		関連施設	なし
			-	
			-	
			-	

要配慮者利用施設（民設）

16



※要配慮者利用施設は浸水想定区域内に立地する施設を示しています。

(6) 被害想定結果（地震・風水害）

◆地震災害（被害を受ける割合）

	想定項目	平田小学校区	市川市全体
建物被害	全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	1.7%	3.6%
	半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	12.5%	16.0%
	焼失棟数の割合	5.6%	4.6%
	浸水棟数（津波）の割合	0.0%	0.8%
人的被害	死者の割合	0.0%	0.1%
	負傷者の割合	0.6%	0.9%
	避難者の割合	5.1%	7.3%



◆風水害（被害を受ける割合）

	想定項目	平田小学校区	市川市全体
建物被害	浸水棟数（江戸川）の割合	81.9%	52.0%
	浸水棟数（真間川）の割合	0.0%	13.6%
	浸水棟数（内水）の割合	13.8%	20.5%
	浸水棟数（高潮）の割合	0.0%	1.5%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、非木造建物がやや多いこともあり、建物被害はやや少ない傾向となっています。また、人的被害については、死者、避難者はほぼ同程度ですが、負傷者については、市全体よりやや少なくなっています。

一方で、風水害については、近くに江戸川が流れていることから、江戸川の氾濫による影響が大きくなっており、市全体と比較して浸水棟数は多くなっています。

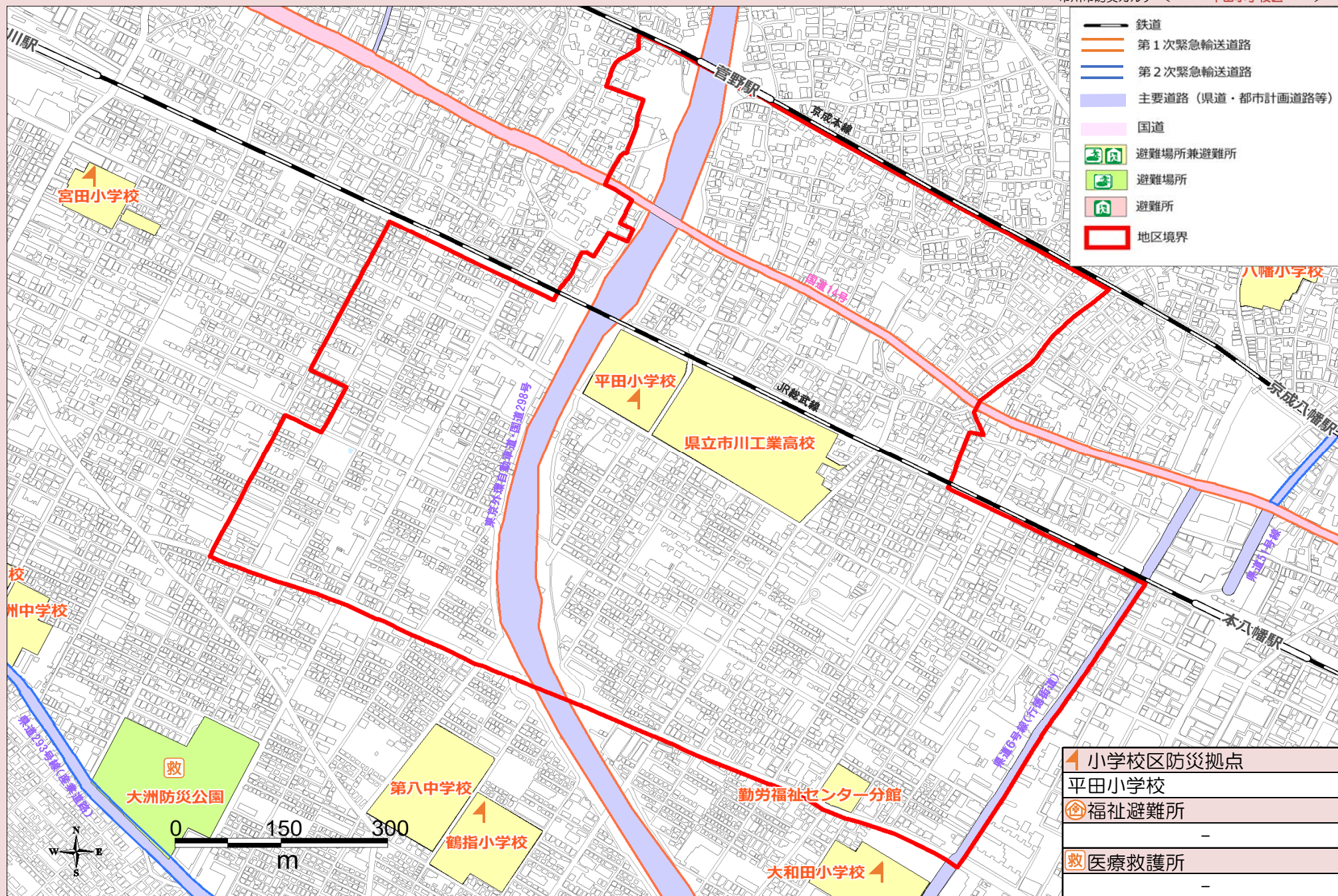
(7) 防災上の課題

項目	課題
地震	地区全域において、震度6弱の揺れが予測され、延焼による危険性が高いことから、初期消火対策や延焼対策が重要です。
風水害	地区の近くに江戸川が流れていることによる浸水被害、低地であることから内水氾濫による浸水被害の恐れもあります。また、過去には道路冠水及び床上・床下浸水が発生しており、浸水対策や円滑な避難対策が重要です。
まちの安全性	地区内には、狭い道路が多いことから、避難ルート等の確保が重要です。また、延焼遮断となる空地が少ないことから、初期消火の対策が重要です。
地域の防災力	地区内では防災活動が比較的低いことから、円滑な初期対応を行えるように備えることが重要です。

(8) 防災対策の方向性

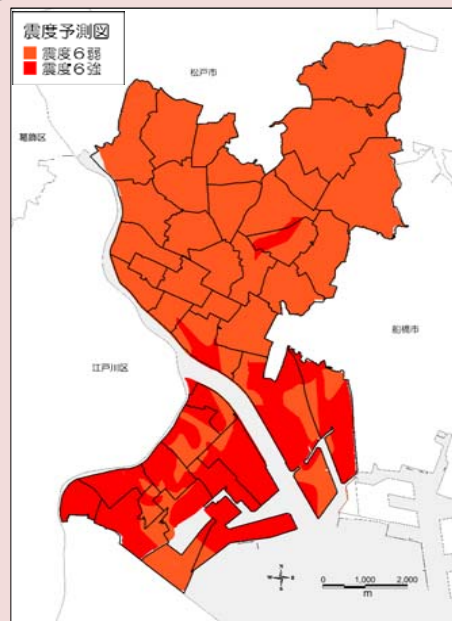
項目	取組の方向性
地域の取組	地区内では、狭い道路が多く、避難ルートや緊急車両が通る道の確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用したブロック塀等の倒壊による災害防止と、日頃から安全なルートを確認しておくことが効果的です。また、災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。 また、地区内の防災リーダーの数が少ないことから、地域で積極的に防災教育のイベント等への参加を行い、地区内の防災リーダーの育成を進めていくことが必要です。
個人の取組	地震災害に対する備えとしては、延焼の危険性が高いことから、住宅用消火器を設置する等、初期消火等の対策を行うことが必要です。また、住宅用火災警報器の設置を行う等、火災発生時の逃げ遅れ対策を行うことが効果的です。また、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した感震ブレーカーの設置、「家具の転倒防止」を利用した家具の固定、家庭内での水や食料の備蓄をする等、自宅（家庭）の防災性を向上させることが効果的です。 一方、風水害に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置、土のうステーション等を利用した土のうの設置による浸水対策や、円滑に避難できるよう市からの情報収集方法や、浸水想定区域外での避難場所等をあらかじめ、洪水ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。 また、緊急車両が通行できない可能性があることから、応急手当ができるよう救急医療品等あらかじめ準備しておくことが必要です。

（９）防災マップ



(10) 基礎資料

①市全域の震度分布図



本カルテには、東京湾北部を震源域とする地震が発生した場合の結果です。
震度分布図を見ると、市の北部は震度6弱、南部は震度6強と予測されています。

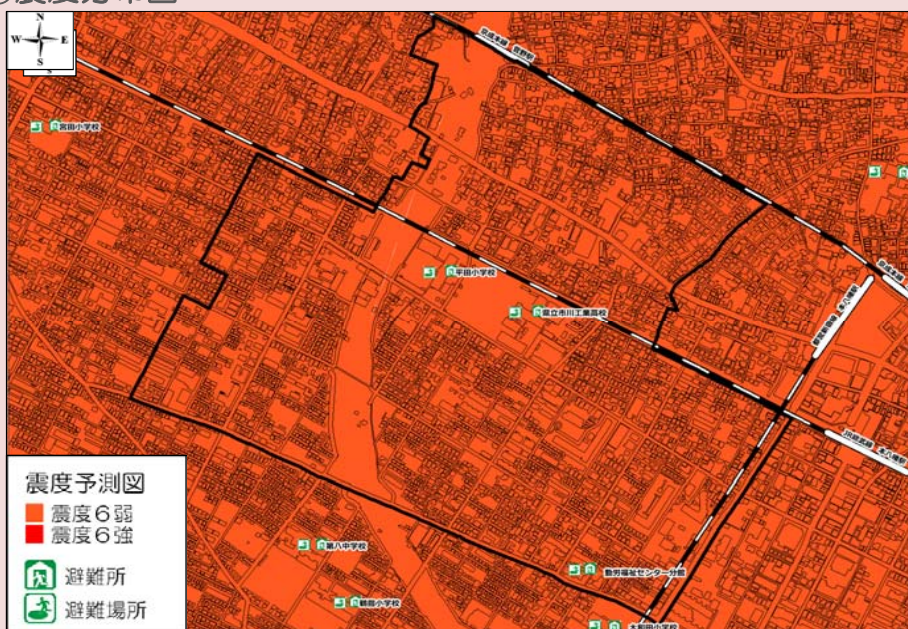
想定地震	東京湾北部地震
マグニチュード	7.3 (震源深さ：20km程度)

▼震源

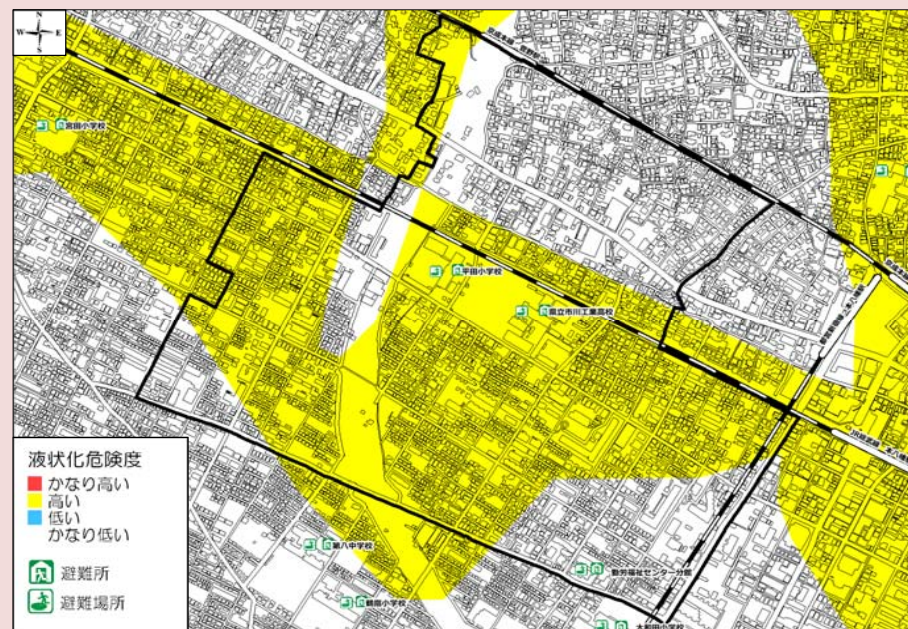


※本結果は市川市地震被害想定結果(平成24年度)に基づいています。

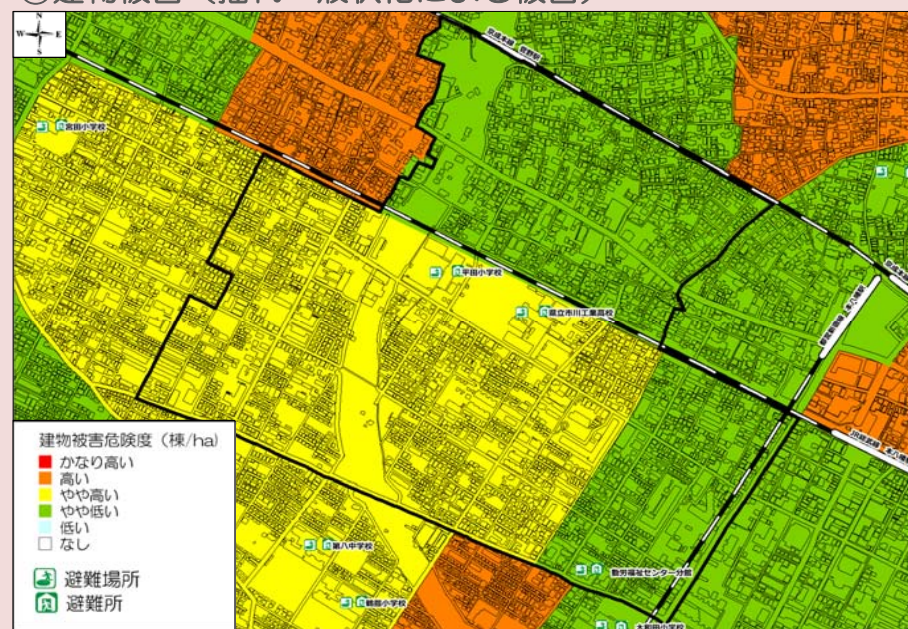
②震度分布図



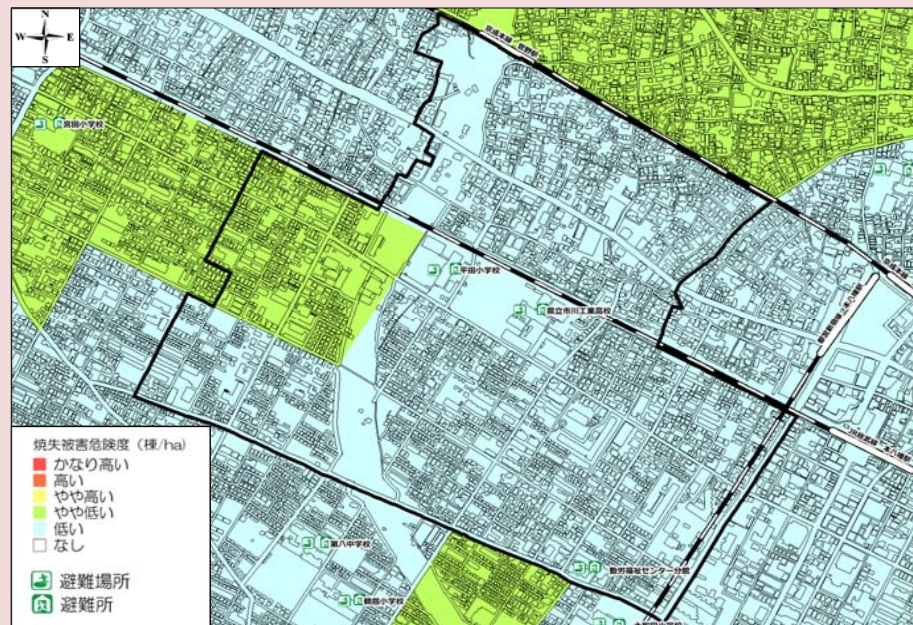
③液状化危険度



④建物被害(揺れ・液状化による被害)



⑤建物被害（延焼による被害）



⑦浸水想定概要

江戸川の氾濫及び真間川
の氾濫、内水の氾濫、高潮
による浸水想定区域を示し
ています。
災害時にすばやく避難でき
るようにあらかじめ近隣の
避難所及び避難場所につい
て確認しましょう。
また、避難経路上の浸水
状況も確認しておきましょ
う。

水の深さ

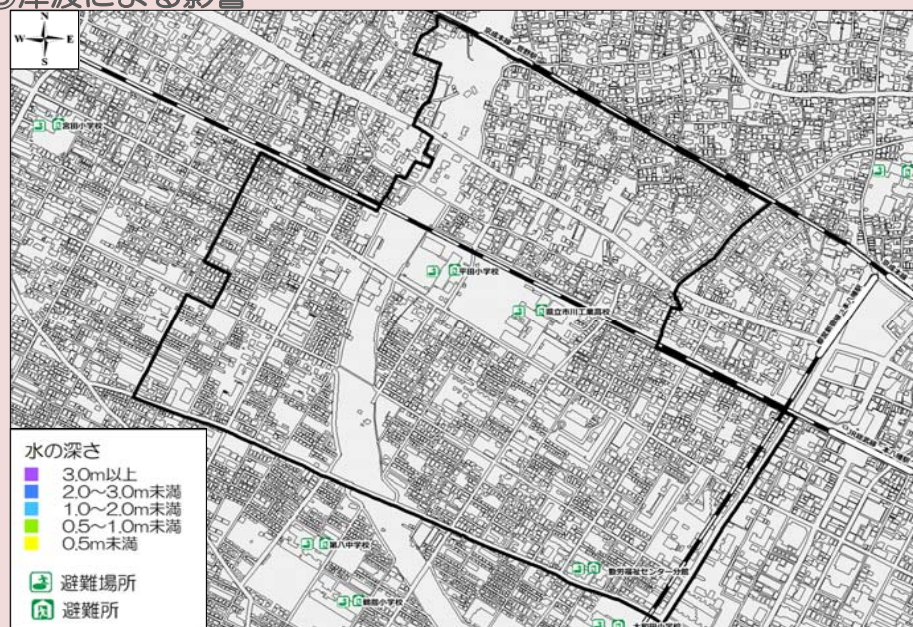
- 水の深さが3.0m以上
- 水の深さが2.0～3.0m未満
- 水の深さが1.0～2.0m未満
- 水の深さが0.5～1.0m未満
- 水の深さが0.5m未満

浸水の目安



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で
任意に設定しています。

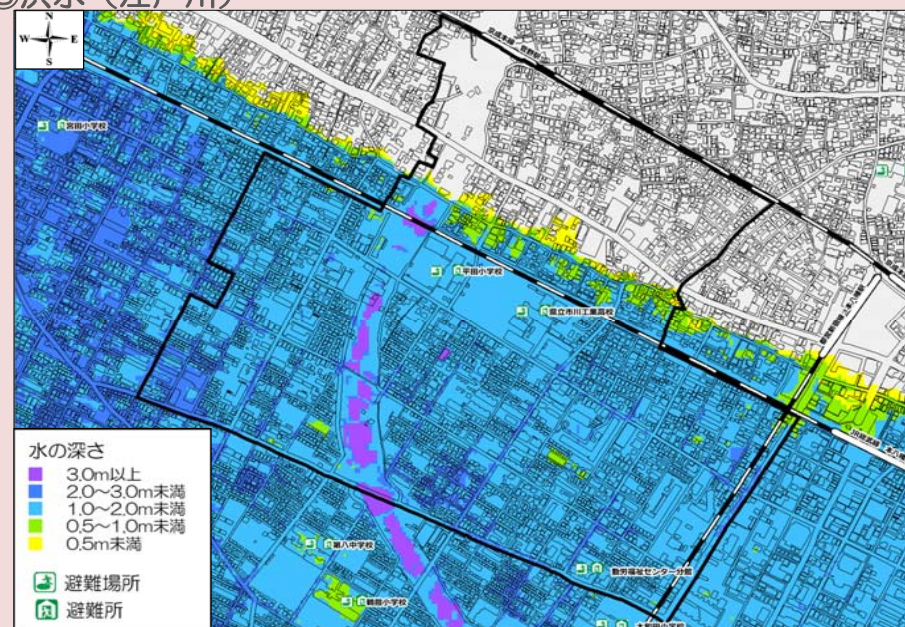
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

平成24年4月：千葉県

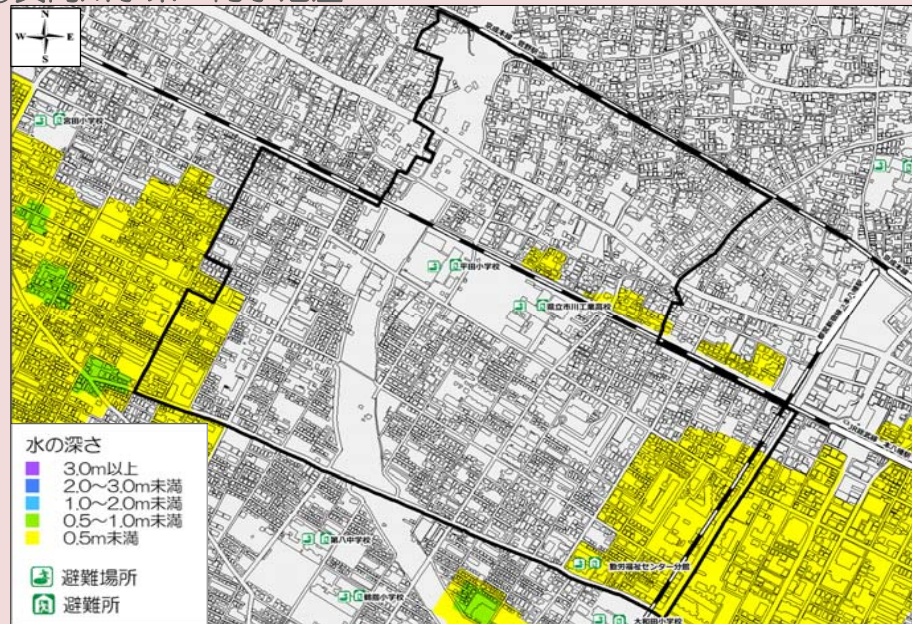
⑧洪水（江戸川）



平成29年7月：国土交通省

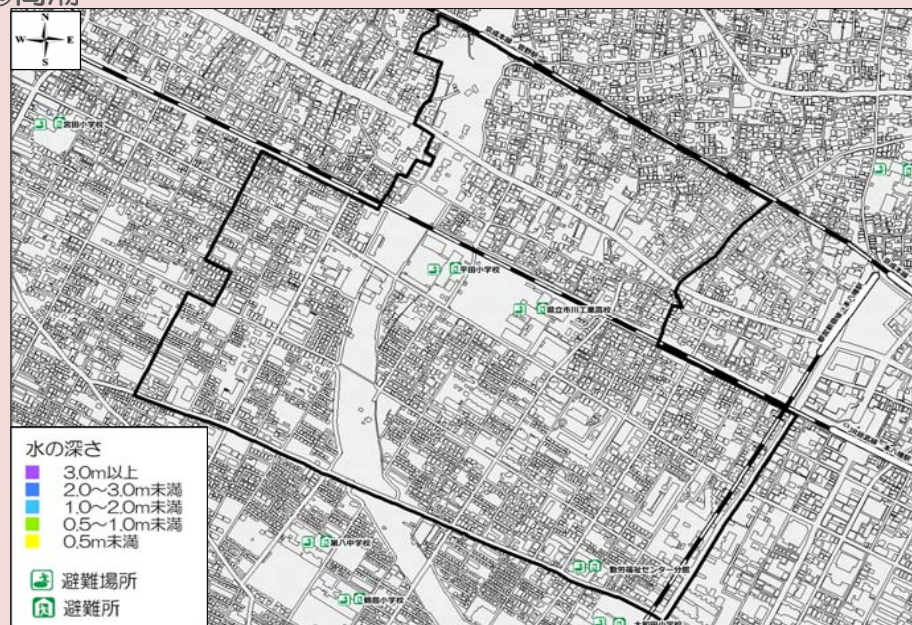
◆メモ

⑨真間川水系・内水氾濫



平成18年3月：千葉県、市川市

⑩高潮



平成21年4月：国土交通省

